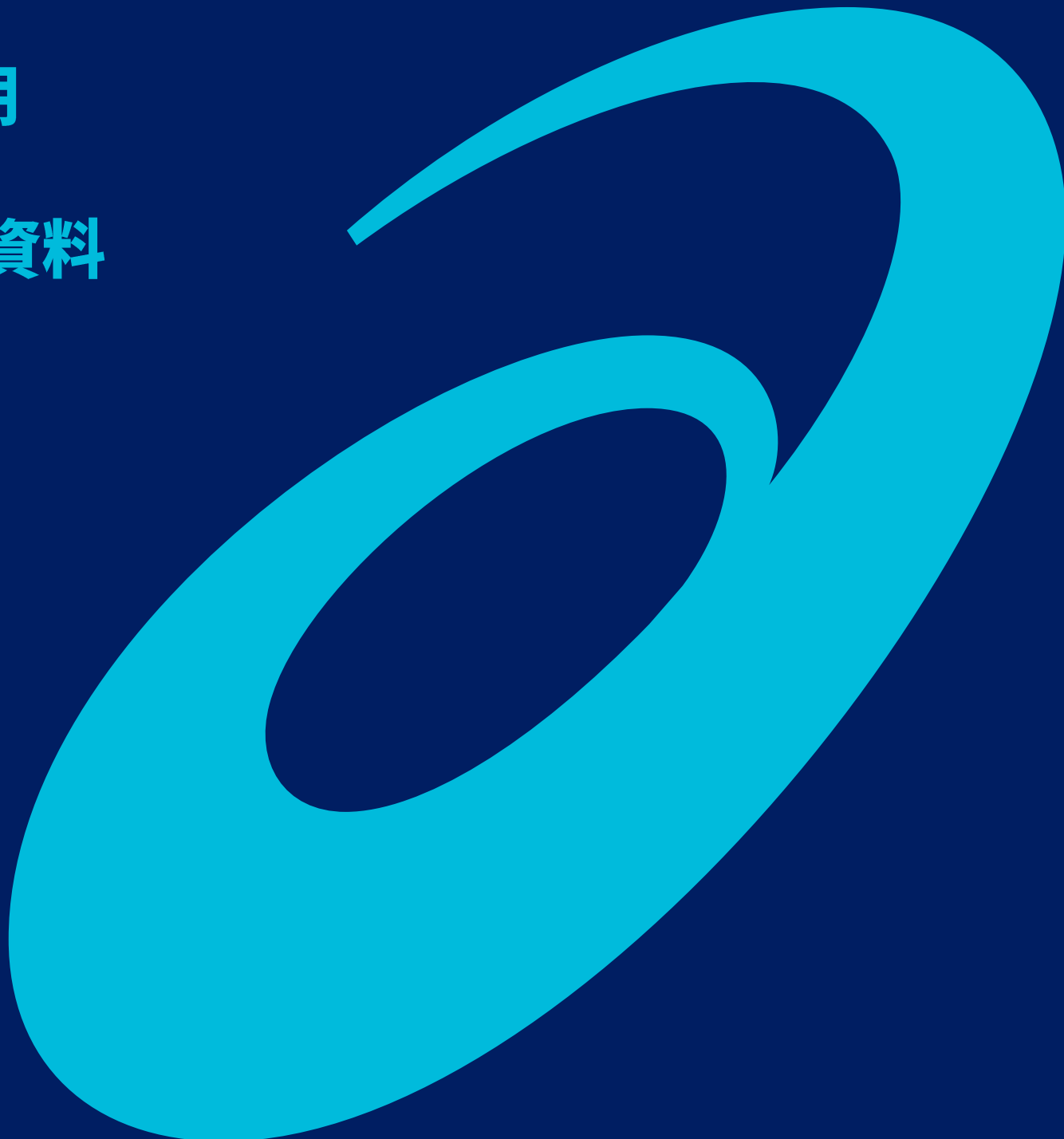


**2019年12月期
第2四半期
決算補足説明資料**

**株式会社アシックス
2019年8月2日**



1. 連結業績
2. 連結経営成績（カテゴリー別）
3. 連結経営成績（地域別）
4. 連結財政状態
5. 連結業績予想
6. 株主還元
7. Appendix

DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

- ✓ 減収増益。但し、為替影響を除くと4年ぶり増収増益。
会社計画通りに進捗。
- ✓ オニツカタイガーは為替影響を除き2桁成長。
パフォーマンスランニングも為替影響を除くと増収。
- ✓ 米国における売上高は、14四半期ぶりに前期比プラスとなった
第1四半期に続き、第2四半期累計も増収で推移。
- ✓ 過去最大規模の自己株式取得100億円を実施予定。
- ✓ 創立70周年を記念し、期末配当において1株当たり6円の記念配当を
実施予定。これにより、年間配当は30円となる予定。
(2020年3月の定時株主総会に付議予定)

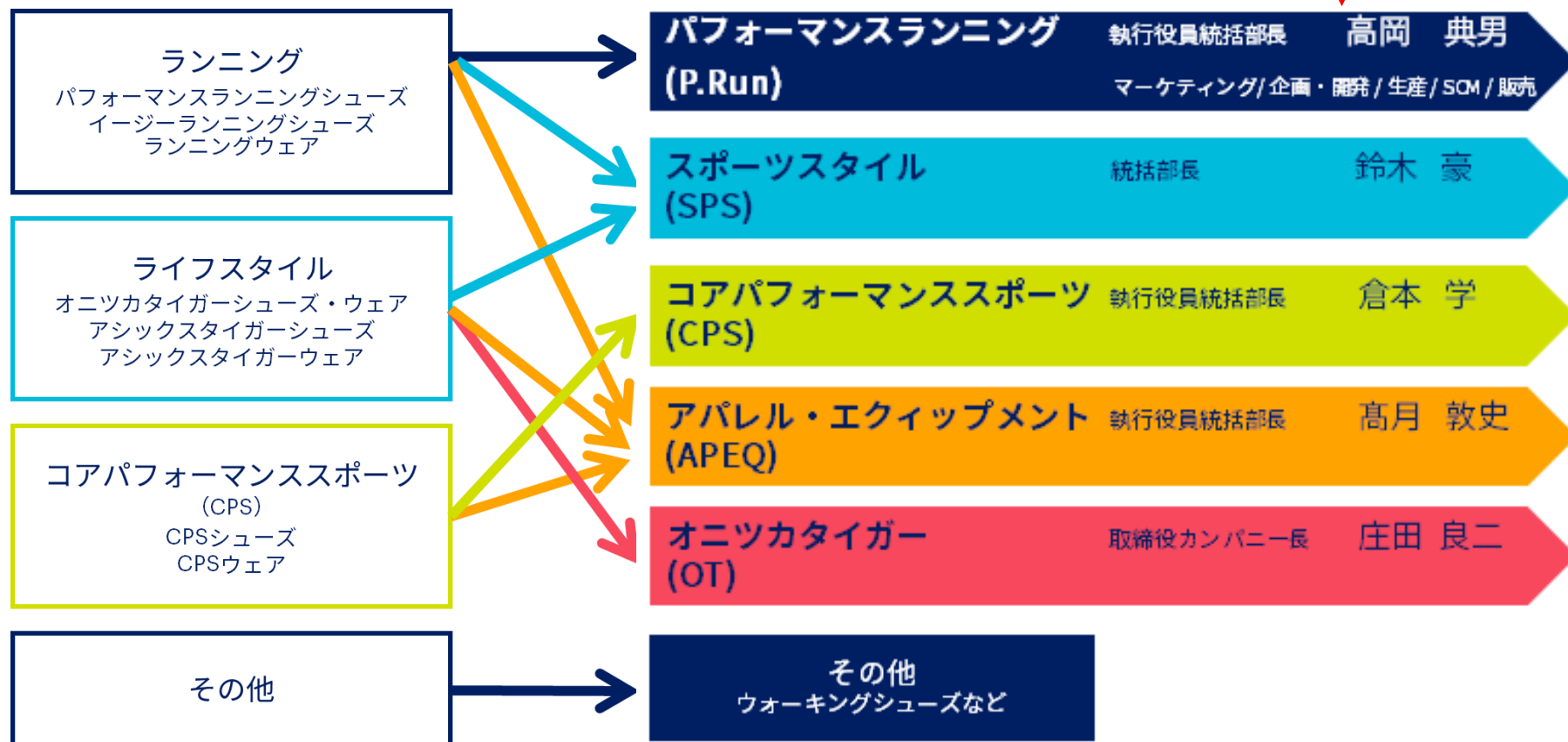
1. 2019年12月期第2四半期 連結業績

- ーセグメント変更の概要
- ーカテゴリー別業績算出における費用の配賦について
- ー2019年12月期第2四半期 概要
- ー連結決算ハイライト
- ー連結売上高内訳（カテゴリー別）

セグメント変更の概要

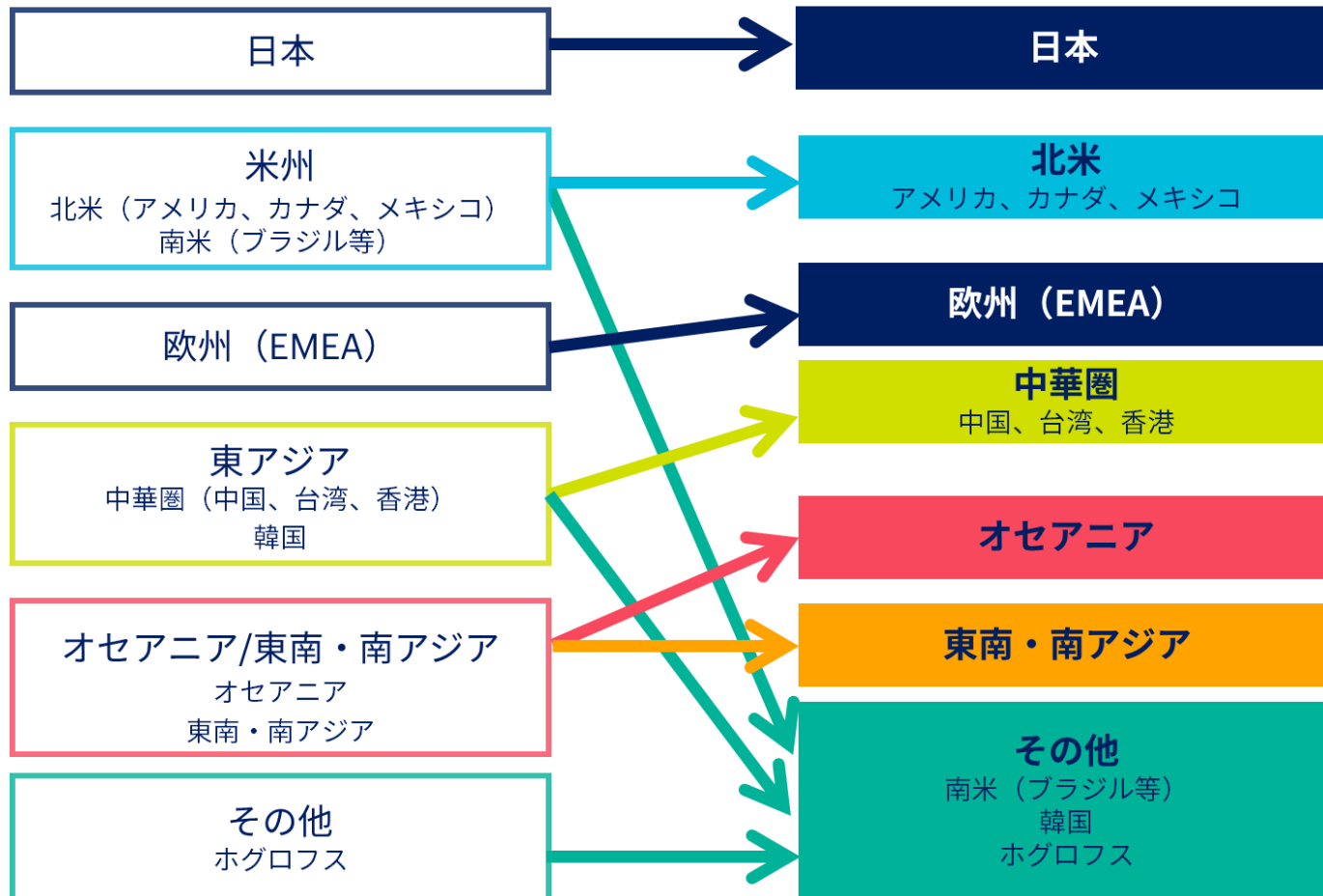
- ✓ プロダクトカテゴリー体制の導入により機能ごとに分かれていた組織を統合。
- ✓ カテゴリートップがコミットした目標の達成に向けて邁進。

従来：機能別経営管理体制



セグメント変更の概要（報告セグメントの変更）

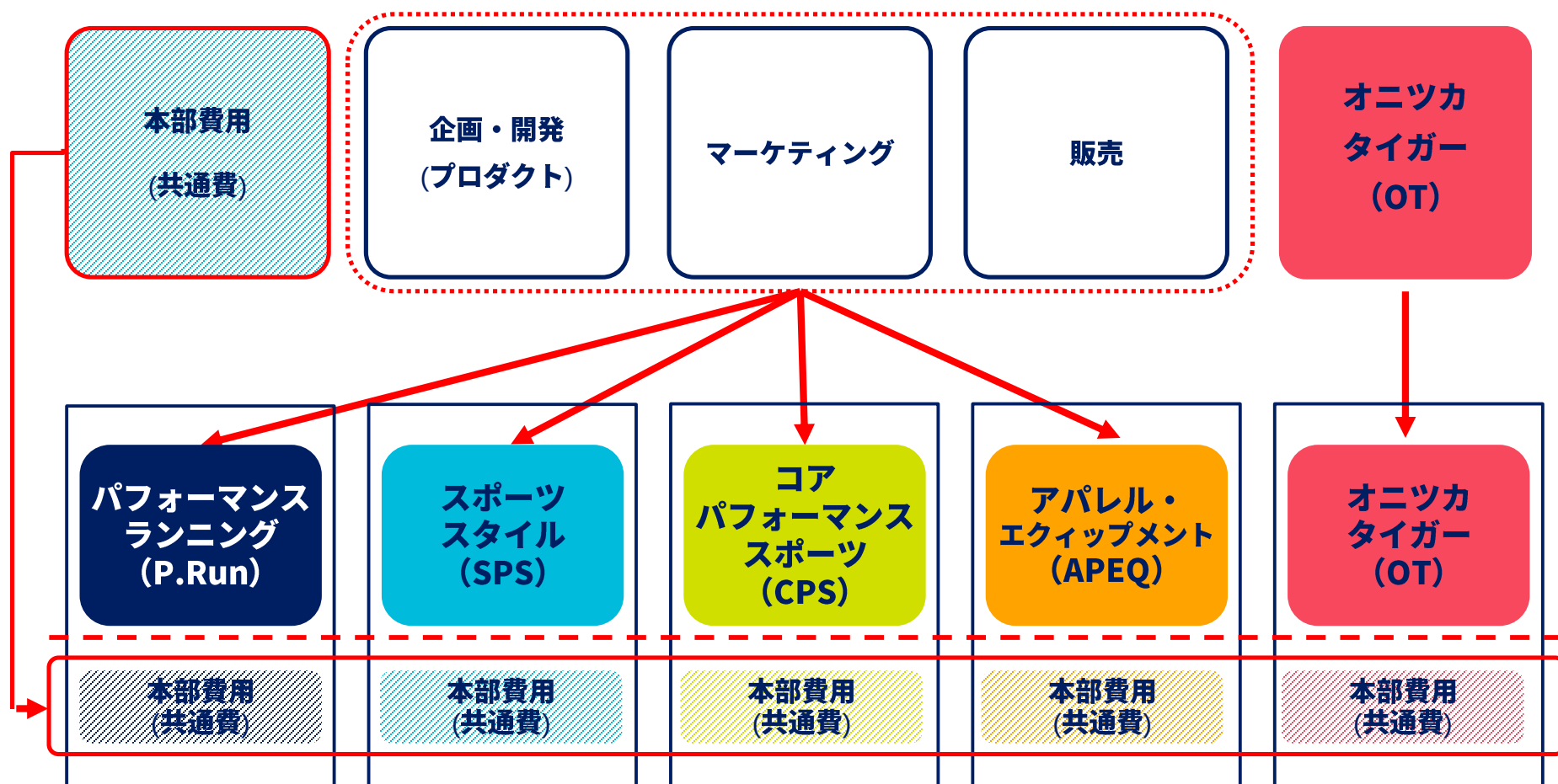
- ✓ 米州から重点地域であるアメリカを含む北米を切り出し.
- ✓ 東アジアから中国本部を設立した中華圏を切り出し.
- ✓ 市場環境が異なるオセアニアと東南・南アジアを分離.



カテゴリー別業績算出における費用の配賦について

- ✓ カテゴリーに特定可能費用は直接費として認識.
- ✓ マーケティング費用は各アクティビティ毎の配分に基づいて費用配賦.
- ✓ 本部費用は、全てのカテゴリーにかかる共通費として、原則、原価按分.

(費用配賦のイメージ図)



売上高

前期比：△55億円 △2.9%（為替影響除く増減 +4億円 +0.2%）

◆ 減収。但し、為替影響を除くと増収。

- ✓オニツカタイガーは為替影響を除き2桁成長。パフォーマンスランニングも為替影響を除くと増収。アパレル・エクイップメント、スポーツスタイルは減収。
- ✓米国は14四半期ぶりに前期比プラスになった第1四半期に続き、第2四半期累計も増収で推移。
- ✓欧州は減収。但し、為替影響を除くと計画通り。
- ✓全ての地域でEコマースは好調に推移し70%プラス。

営業利益

前期比：+1億円 +1.1%

◆ 販管費減少により増益。

- ✓オニツカタイガーで増益。一方、パフォーマンスランニングは減益。
- ✓販管費は前期の構造改革効果（約21億円）もあり減少。
- ✓広告宣伝費は一部に遅れはあるものの下半期に増加させ、当初年間計画通り使用予定。

四半期純利益 前期比：+21億円 +60.9%

◆ 増益。

- ✓為替差益の計上により増益。

その他

◆ 会計基準の変更で、一部の海外子会社のリースについてオンバランス。

- ✓資産223億円を計上。これにより、自己資本比率は51.4%へ。
- ✓オンバランスしたリース関連費用は、従来の賃借料ではなく、減価償却費及び支払利息で計上。

連結決算ハイライト



(単位：億円)

	2018年Q2実績 (FY18Q2) 実績	2019年Q2実績 (FY19Q2) 実績	前期比 上段：増減額 下段：増減率	FY19Q2 開示予想	開示予想比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	1,927	1,872	△55 △2.9%	1,950	△78 △4.0%
売上総利益	926	890	△36 △4.0%	-	-
売上総利益率	48.1%	47.6%	△0.5ppt	-	-
販管費	841	804	△37 △4.5%	-	-
販管费率	43.7%	43.0%	△0.7ppt	-	-
営業利益	84	85	+1 +1.1%	70	+15 +22.7%
営業利益率	4.4%	4.6%	+0.2ppt	3.6%	+1.0ppt
経常利益	64	99	+35 +53.5%	60	+39 +66.1%
特別損益	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	34	55	+21 +60.9%	30	+25 +83.5%
DTC売上高	470	547	+77 +16.4%	-	-
DTC売上高比率	24.4%	29.2%	+4.8ppt	-	-

	FY18 Q2	FY19 Q2	増減額	増減率
海外売上高	1,401	1,351	△50	△3.6%
海外比率	72.7%	72.2%	-	△0.5ppt

為替影響	△59
為替影響除く 連結売上高増減	+4 +0.2%

<参考：平均為替レート(円)>

	第2四半期(1~6月)	
	18年実績	19年実績
1ドル	109.17	109.95
1ユーロ	131.27	124.44
1人民元	17.05	16.21

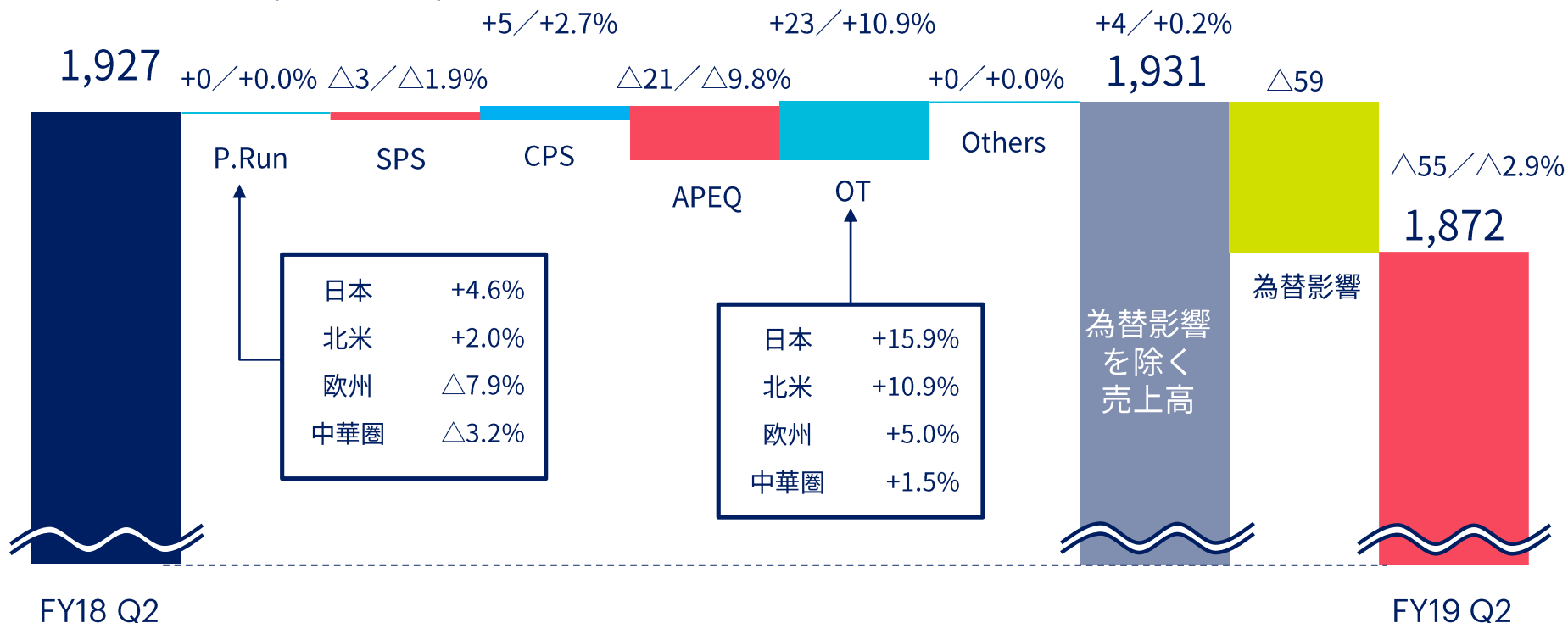
- ✓減収増益。但し、為替影響を除くと4年ぶり増収増益。会社計画通りに進捗。
- ✓営業利益については、前期の構造改革効果もあり増益。

連結売上高内訳（カテゴリー別）

- ✓オニツカタイガーは引き続き増収。
- ✓パフォーマンスランニングは、為替影響を除くと増収。

増減額／増減率(邦貨ベース)

(単位：億円)



2. 2019年12月期第2四半期 連結経営成績 (カテゴリー別)

- － カテゴリー別連結売上高
- － カテゴリー別業績

カテゴリー別連結売上高



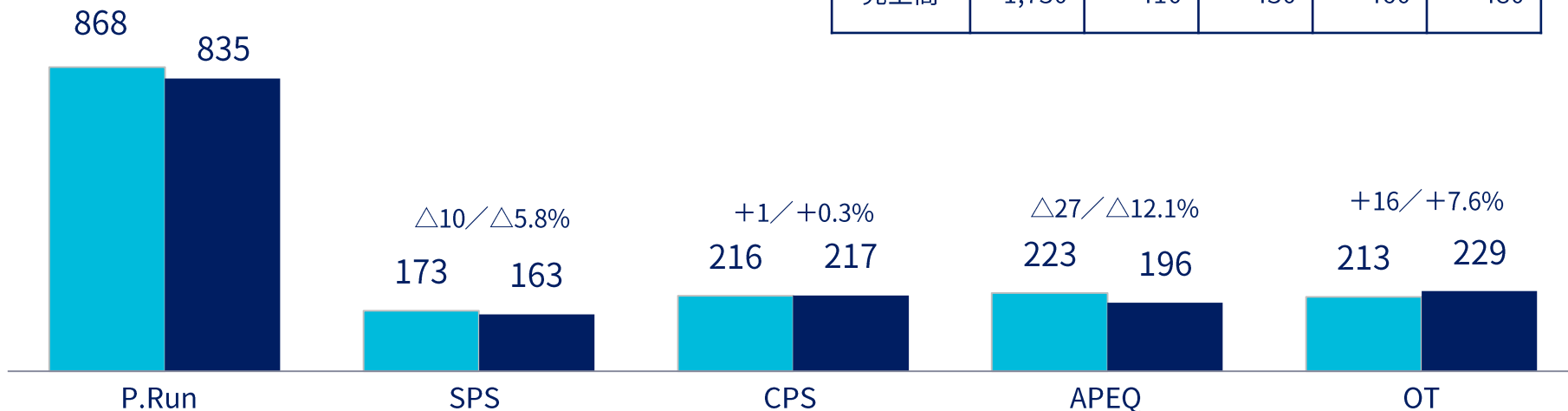
<売上高>

(単位：億円)

(ご参考：FY19年間予想)

増減額／増減率（邦貨） ■ FY18 Q2 ■ FY19 Q2

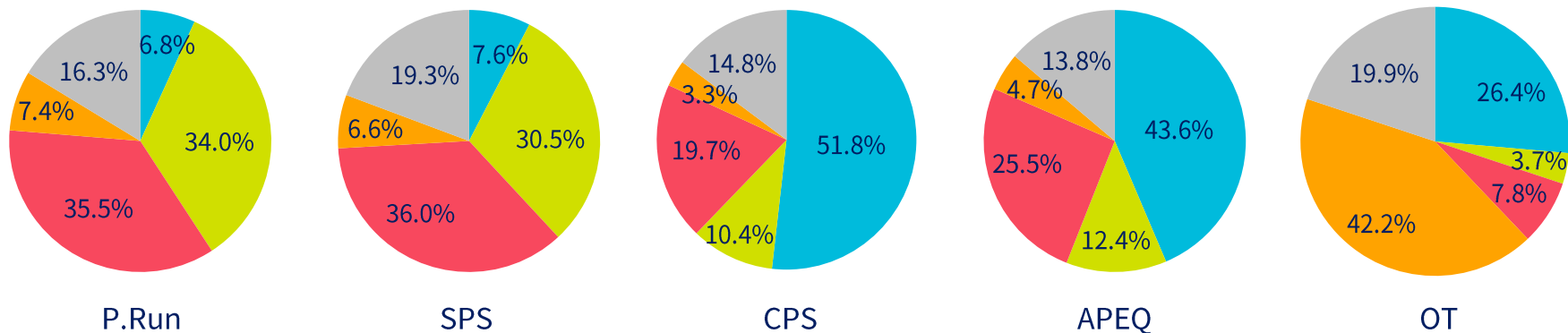
△33／△3.7%



	P.Run	SPS	CPS	APEQ	OT
売上高	1,730	410	430	460	480

<カテゴリー別地域別売上高構成>

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他



パフォーマンスランニング (P.Run)

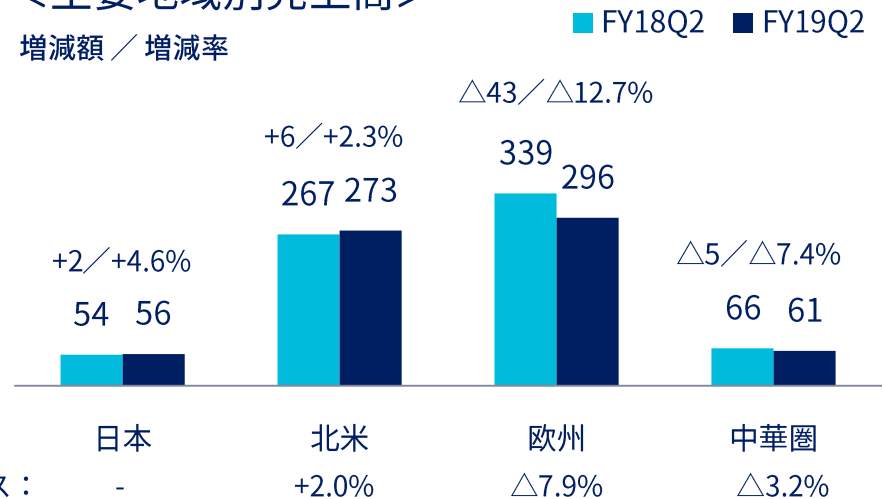
<第2四半期業績>

	FY18 Q2	FY19 Q2	前期比 増減額	増減率
売上高	868	835	△33	△3.7%
営業利益	57	26	△31	△53.8%
営業利益率	6.7%	3.2%	-	△3.5ppt

(ご参考：FY19年間 売上高予想 1,730億円)

<主要地域別売上高>

(単位：億円)



売上高

前期比：△33億円 △3.7% (為替影響除く増減 +0億円 +0.0%)

- ◆ 第1四半期に続き北米が前期比増収ながらも、欧州の低調により減収。但し、計画より約20億円上回る。
- ✓北米：前四半期の米国における14四半期ぶりの増収を牽引。第2四半期も勢いそのままにプラスで推移。
- ✓欧州：ホールセールチャネルで苦戦するも、現地通貨ベースでは計画を上回る。
- ✓その他：ブラジル、オセアニアが好調。

営業利益

前期比：△31億円 △53.8%

- ◆ ディスカウント実施等により粗利率が悪化。但し、為替影響を除くとほぼ計画通りに推移。
- ✓新商品発売を見据えた計画的な早期ディスカウント等を実施。

今後の取組み

- ◆ マーケティング投資による販売促進を進め、特に米国では厳格なディスカウント管理による粗利改善を図る。
- ◆ スタビリティモデルのトップであるGEL-KAYANO 26の販売好調。機能性を訴求するために直営店舗を起点とした顧客アプローチを拡大させ、ホールセールチャネルへ成功モデルを展開する。
- ◆ 2020年3月開催のLAマラソン公式スポンサー契約を締結。米国市場におけるランナーやお客様との接点を増やし、ランニング専門店との関係強化を加速させる。

スポーツスタイル (SPS)

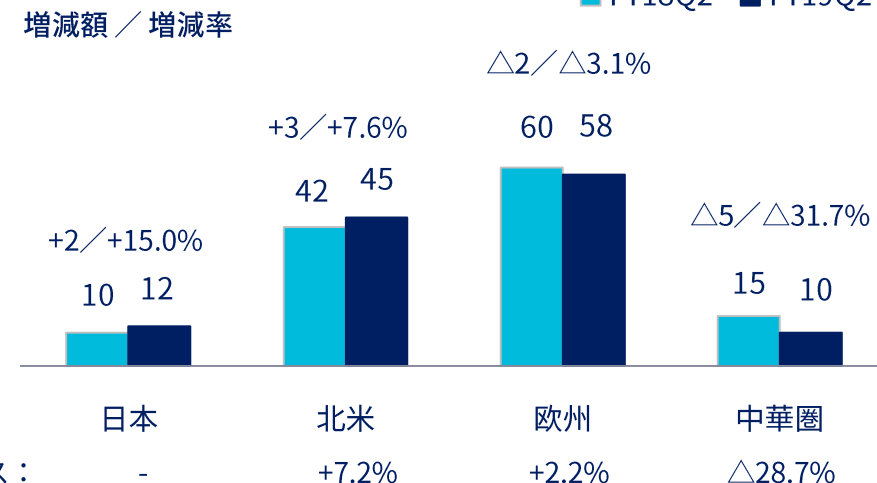
<第2四半期業績>

	FY18 Q2	FY19 Q2	前期比 増減額	増減率
売上高	173	163	△10	△5.8%
営業利益	1	4	+3	+125.5%
営業利益率	1.1%	2.7%	-	+1.6ppt
(ご参考：FY19年間 売上高予想 410億円)				

<主要地域別売上高>

(単位：億円)

■ FY18Q2 ■ FY19Q2



売上高

前期比：△10億円 △5.8% (為替影響除く増減 △3億円 △1.9%)

- ◆ 為替影響を除くと日本、北米、欧州は堅調。但し、中華圏及び南米の低調により減収。
- ◆ プロダクトではファンラン用シューズは2桁成長。但し、アシックスタイガーは苦戦。
下半期から開始するGEL-LYTE IIIにちなんだ30周年モデル販売やイベントを通じ売上反転を狙う。
- ✓ 中華圏：一部代理店の商品戦略の影響により減収（パフォーマンスランニングへ注力）。

営業利益

前期比：+3億円 +125.5%

- ◆ 広告宣伝費を中心とした販管費減少により前期比、計画比共にプラス。

今後の取組み

- ◆ 高価格モデルであるGEL-QUANTUM 360 5の販売に合わせ、お客様とのコミュニケーションを強化することでQUANTUMシリーズの更なる拡販を狙う。
- ◆ 下半期にEコマースサイトを改善し、One to Oneマーケティングを更に強化することで、情報感度の高いお客様に対して効果的な商品提案を実施する。

コアパフォーマンススポーツ (CPS)

(単位：億円)

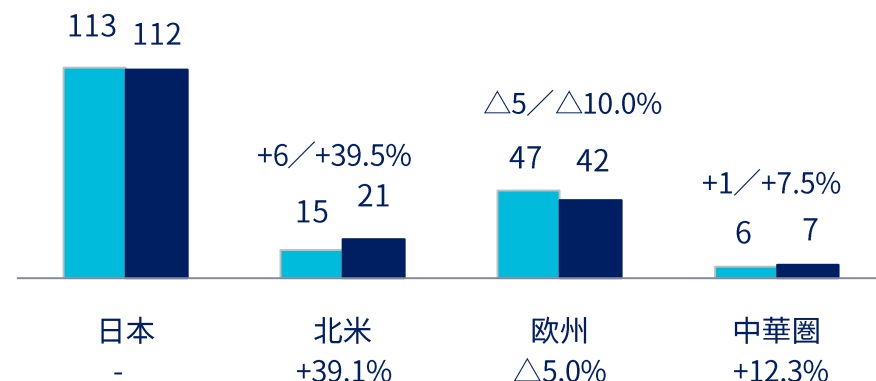
<第2四半期業績>

	FY18 Q2	FY19 Q2	前期比 増減額	増減率
売上高	216	217	+1	+0.3%
営業利益	△1	1	+2	-
営業利益率	△0.8%	0.8%	-	+1.6ppt
(ご参考：FY19年間 売上高予想 430億円)				

<主要地域別売上高>

増減額 / 増減率
△1 / △1.0%

■ FY18Q2 ■ FY19Q2



売上高

前期比：+1億円 +0.3% (為替影響除く増減 +5億円 +2.7%)

- ◆ 前期比、計画比ともにプラスで推移（為替影響除く）。北米が増収ながらも、日本と欧州は減収。
 - ✓北米：主要取引先との連携強化により、テニスが好調。
 - ✓欧州：インドアスポーツ市場で低調。但し、計画比では堅調に推移。
 - ✓中華圏：テニス、サッカーが好調で、為替影響を除くと2桁成長を達成。

営業利益

前期比：+2億円 - %

- ◆ 粗利率の改善により増益。
 - ✓全体の営業利益は日本が牽引。
 - ✓北米、中華圏で粗利率が改善。

今後の取組み

- ◆ イニエスタ選手モデルの販売に合わせた販促活動及び試し履き等のグラスルーツ活動を通じた取引先との連携強化。
- ◆ テニスの全米オープンに合わせたNYでの店頭イベントにより拡販を図る。
- ◆ ラグビー・陸上等の世界的スポーツイベントを通じて、消費者へのブランド訴求を強化。

アパレル・エキップメント (APEQ)

(単位：億円)

<第2四半期業績>

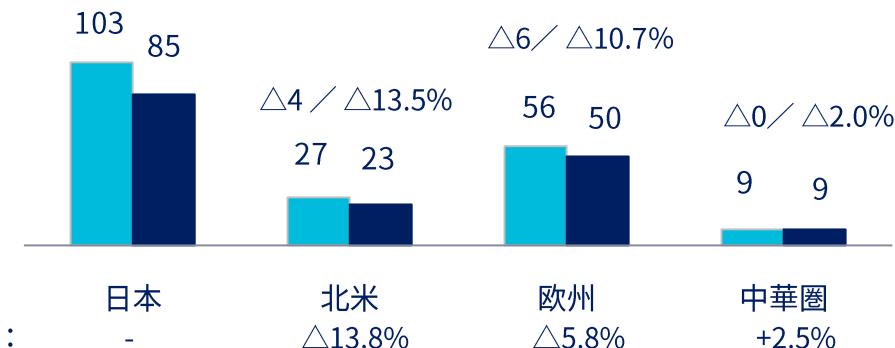
	FY18 Q2	FY19 Q2	前期比 増減額	増減率
売上高	223	196	△27	△12.1%
営業利益	赤字	赤字	-	-
営業利益率	-	-	-	-
(ご参考：FY19年間 売上高予想 460億円)				

<主要地域別売上高>

増減額 / 増減率

■ FY18Q2 ■ FY19Q2

△18 / △16.7%



売上高

前期比：△27億円 △12.1% (為替影響除く増減 △21億円 △9.8%)

◆ 前期比、計画比ともにマイナス。各地域で低調。

✓日本ではトレーニングが低調。特に、スクールウェアを中心とした収益性の低い商品群を継続的に見直し。

営業利益

前期・当期ともに赤字

◆ 営業利益は前期並み。また、計画よりも改善して推移しており、下期以降に更なる改善を見込む。

今後の取組み

◆ フットウェアと連動した戦略的アパレル商品の販売促進。

◆ 日本市場において、地域営業を強化しチームビジネスの拡販を図る。

◆ ラグビーの世界的スポーツイベントに向けて、オーストラリア代表や南アフリカ代表のアセットを活用した販売促進。

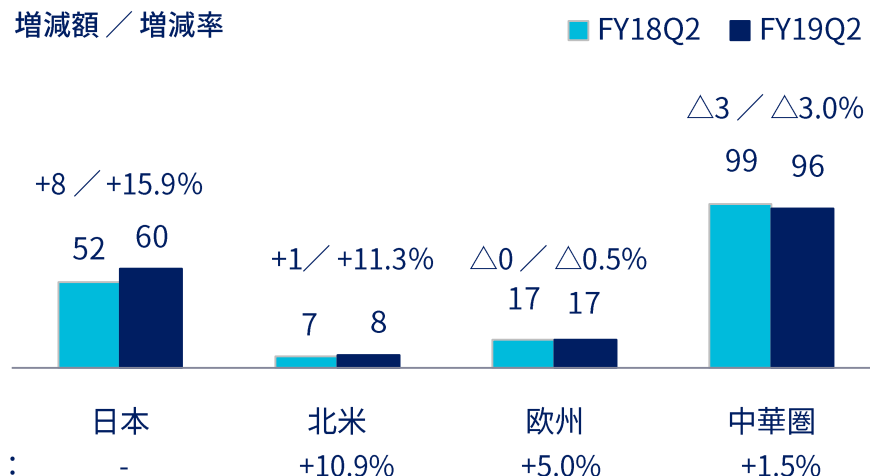
オニツカタイガー (OT)

<第2四半期業績>

	FY18 Q2	FY19 Q2	前期比 増減額	増減率
売上高	213	229	+16	+7.6%
営業利益	39	51	+12	+28.5%
営業利益率	18.8%	22.4%	-	+3.6ppt
(ご参考：FY19年間 売上高予想 480億円)				

<主要地域別売上高>

(単位：億円)



売上高

前期比：+16億円 +7.6% (為替影響除く増減 +23億円 +10.9%)

◆ 第1四半期に引き続き増収、また為替影響を除くと2桁成長を達成。

✓日本／韓国：直営店は引き続き好調。

✓中国：直営店及びEコマースは好調に推移。一方、18年度の前倒し納品の影響により減収。

営業利益

前期比：+12億円 +28.5%

◆ 増収に加え、粗利率の改善により大幅増益。

✓DTC比率の上昇により粗利率向上。

✓計画通りのコストコントロール実施により、営業利益は計画比も上回って推移。

今後の取組み

◆ 北京（7月）での大型旗艦店開店、ホーチミン（12月）での旗艦店開店に加え、世界各国の主要都市（NY、パリ、ミラノ等）での出店を計画。

◆ ブランドイベントを適地で開催予定。

◆ セレブリティを活用したPR活動実施。

3. 2019年12月期第2四半期 連結経営成績 (地域別)

- 地域別連結売上高
- 連結売上高内訳（地域別）
- 報告（地域別）セグメント（前年同基準）

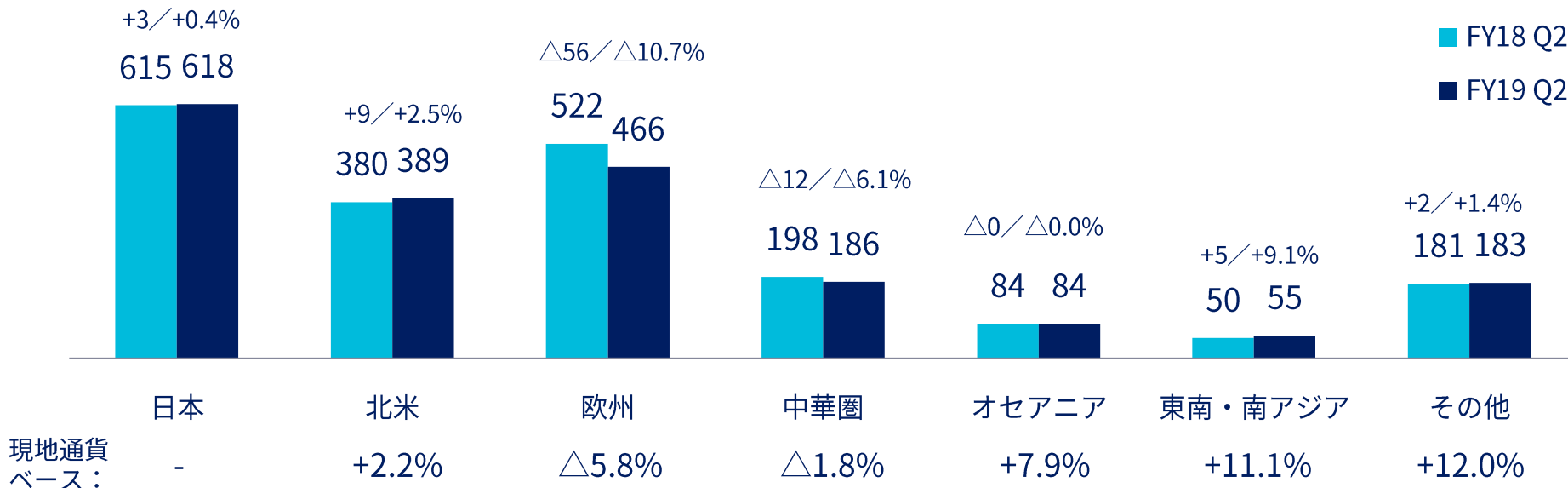
地域別連結売上高



<売上高>

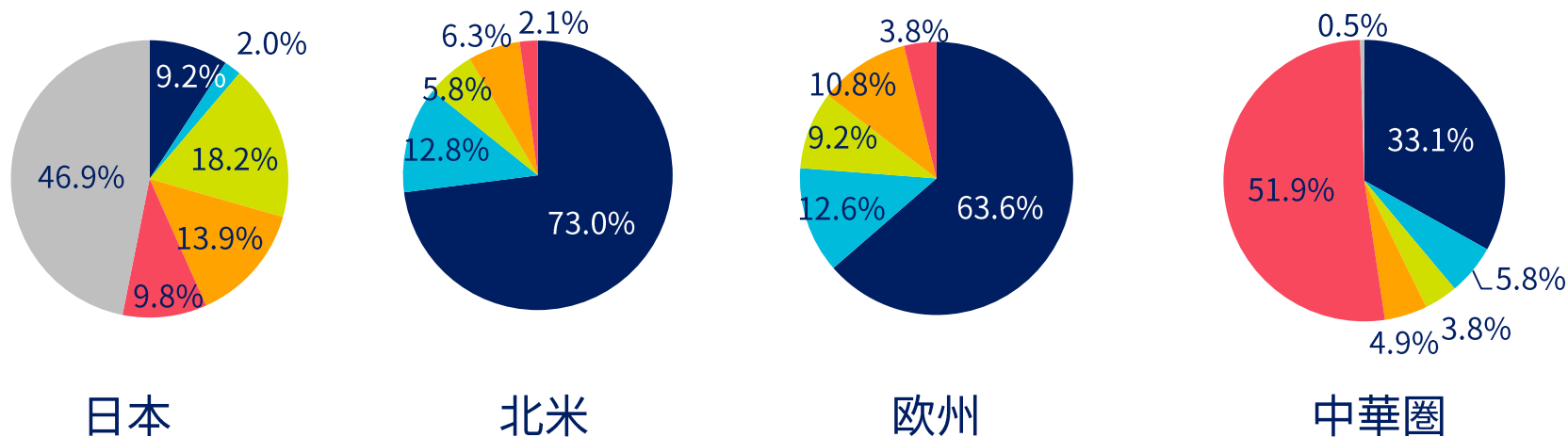
増減額／増減率（邦貨）

（単位：億円）



<主要地域別カテゴリー別売上高構成>

■ P.Run ■ SPS ■ CPS ■ APEQ ■ OT ■ その他

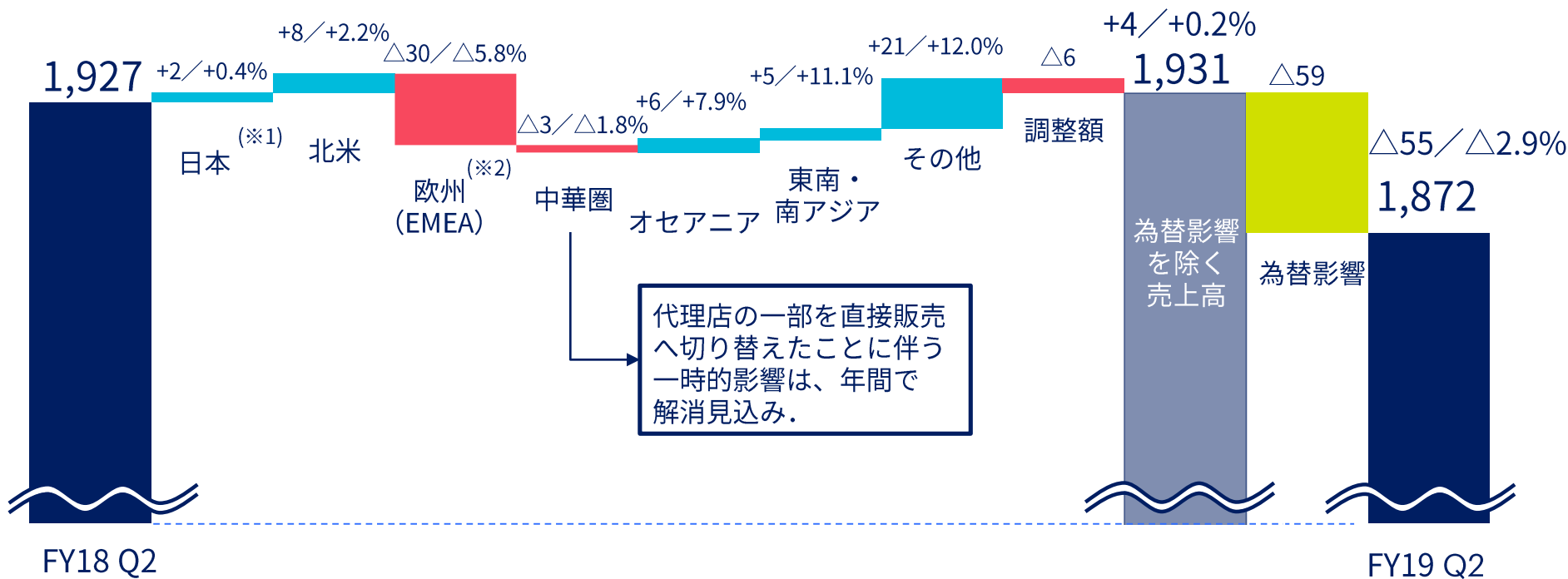


連結売上高内訳（地域別）

- ✓ 為替影響を除くと増収+0.2%.
- ✓ 米国は14四半期ぶりに前期比プラスになった第1四半期に続き、第2四半期累計も増収で推移.
- ✓ 欧州は減収. 但し、為替影響を除くと、ほぼ計画通り.

増減額／増減率(現地通貨ベース)

(単位：億円)



(※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。
 (※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

報告（地域別）セグメント（前年同基準）



✓ 当期から、販売会社にてグループ会社に対するプラットフォーム使用料等を計上したため、前年同基準で比較。

<FY19 Q2>

(単位：億円)

	日本	北米	欧州	中華圏	オセアニア	東南・南アジア	その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
売上高	618	389	466	186	84	55	183	1,981	△109	1,872
営業利益	33	△21	10	31	10	5	7	75	10	85
営業利益率	5.4%	△5.4%	2.2%	17.0%	12.3%	9.9%	4.2%	-	-	4.6%
セグメント間取引調整	4	8	4	0	2	0	1	19	△19	0
FY18ベース営業利益	37	△13	14	31	12	5	8	94	△9	85
FY18ベース営業利益率	6.1%	△3.5%	3.2%	17.1%	14.5%	9.9%	4.6%	-	-	4.6%
FY18ベース営業利益 (FX調整後)	37	△13	15	33	13	6	8	99	△9	90

<FY18 Q2>

	日本	北米	欧州	中華圏	オセアニア	東南・南アジア	その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
売上高	615	380	522	198	84	50	181	2,030	△103	1,927
営業利益	23	△6	29	33	12	8	△5	94	△10	84
営業利益率	3.8%	△1.6%	5.6%	16.7%	14.4%	17.6%	△3.2%	-	-	4.4%

4. 2019年12月期第2四半期 連結財政状態

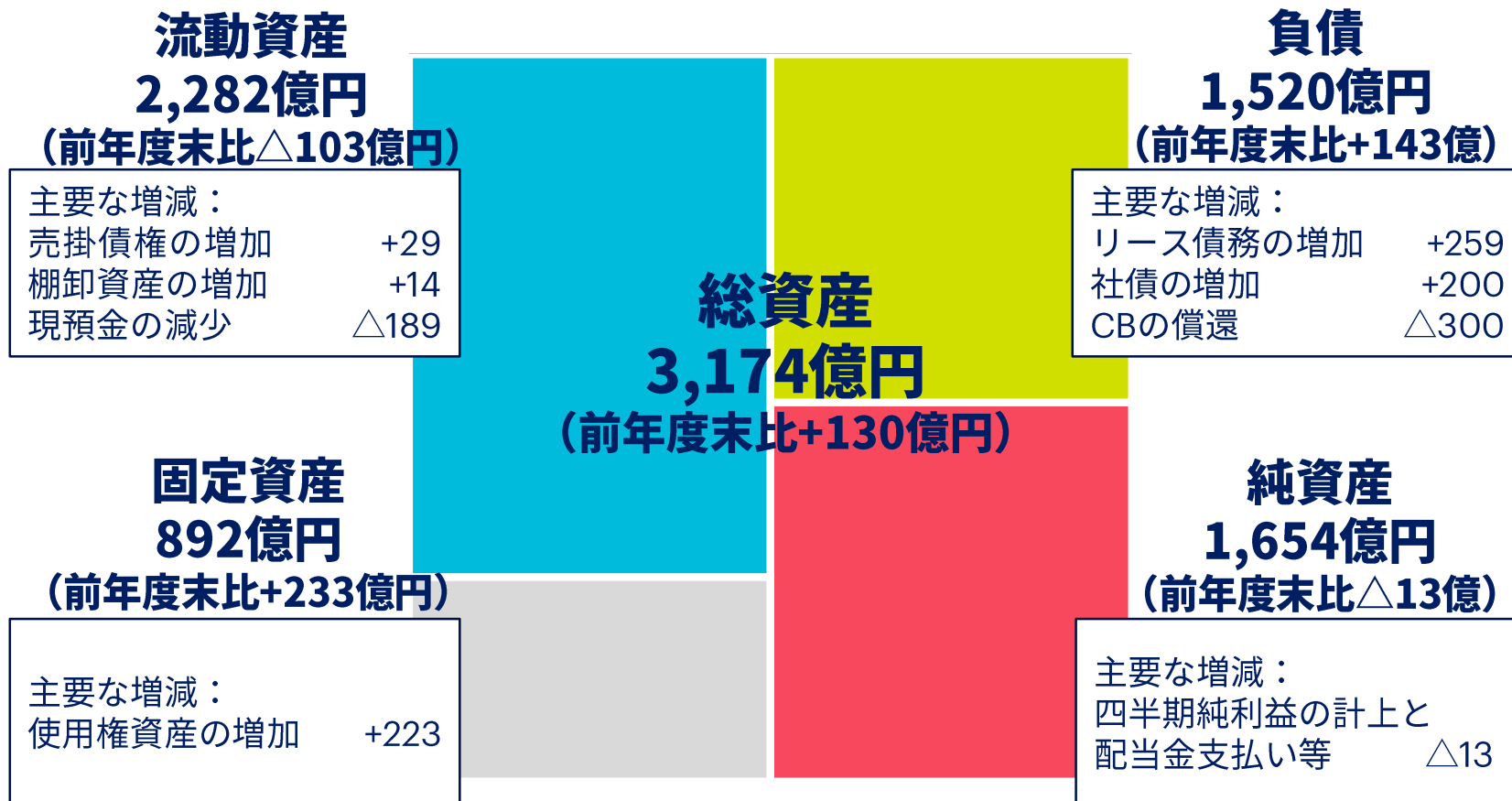
- －連結貸借対照表
- －連結CF（キャッシュフロー）

連結貸借対照表



- ✓ 総資産の増加は、主に会計基準の変更に伴うリース契約のオンバランス化によるもの。
- ✓ 現預金は、CBの償還△300億円と社債発行+200億円により残高は493億円。

(単位：億円)

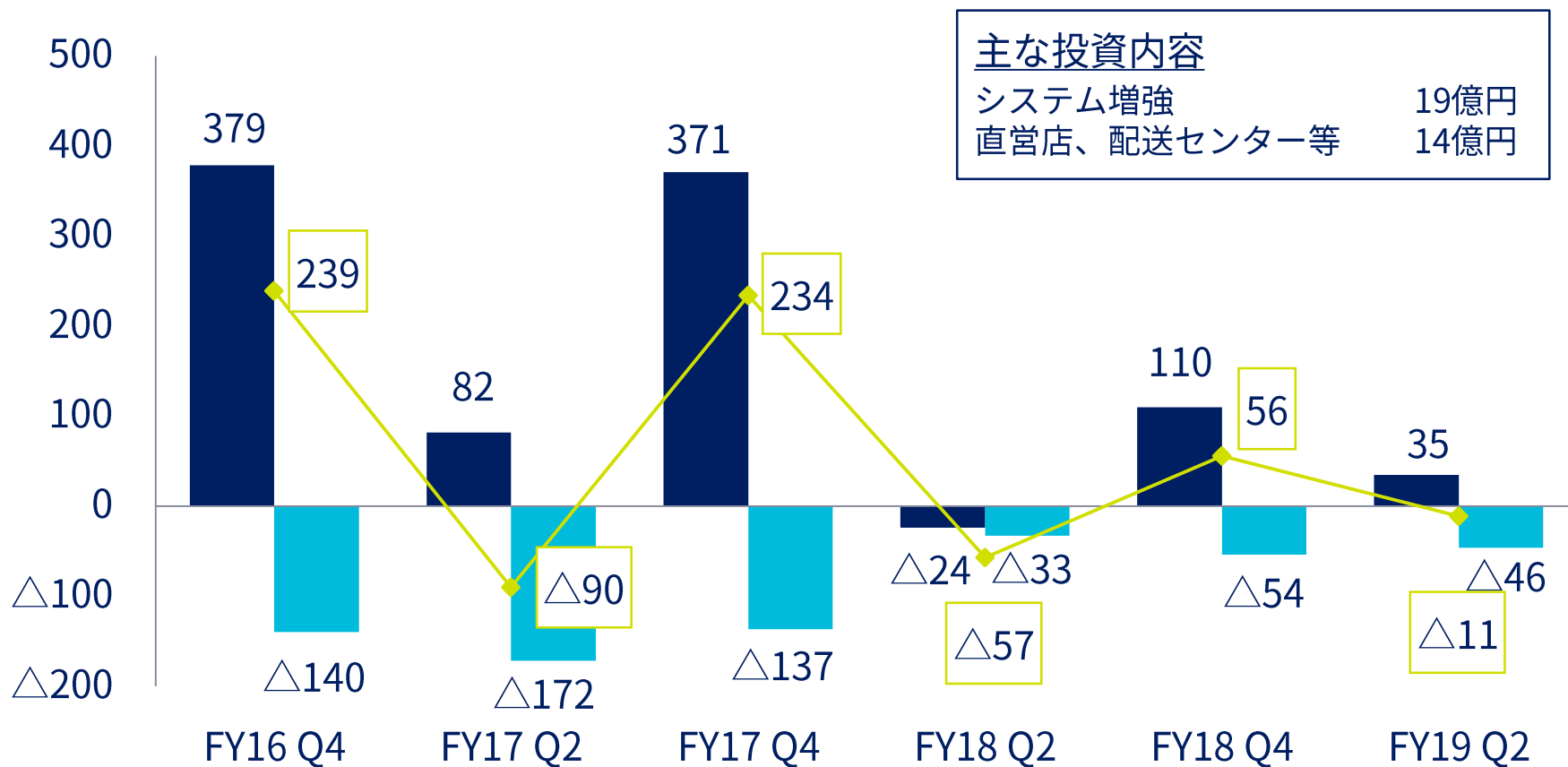


自己資本比率：51.4%
(前期末：54.1%)

連結CF（キャッシュフロー）

- ✓ 2018Q2比では、純利益の増加及び運転資本の改善等により、上半期の営業CFはプラスに転じた。
- ✓ 投資キャッシュフローは2018Q2比増加したが、フリーキャッシュフローは改善。

■ 営業キャッシュフロー ■ 投資キャッシュフロー ◆ フリーキャッシュフロー
(単位：億円)



5. 2019年12月期第2四半期 連結業績予想

2019年12月期 連結業績予想

				2019年12月期 今回予想	2019年12月期 前回予想	増減率
売	上	高		3,900	3,900	-
営	業	利	益	120	120	-
営	業	利	益	率	3.1%	+0.0ppt
経	常	利	益	125	100	+25.0%
親会社株主に帰属する						
当	期	純	利	益	75	+50.0%

【配当金】 中間 期末 通期

2018年12月期 12.0円 12.0円 24.0円

2019年12月期 12.0円 12.0円 24.0円
予想 (予定) (予定) (予定)

記念配当 — 6.0円 6.0円
(予定) (予定)

【為替レート】 USD EUR RMB

2019年12月期 105.00円 125.00円 15.50円
前回予想

2019年12月期 105.00円 125.00円 15.50円
下期予想

修正理由

経常利益及び当期純利益

✓ 為替差益の影響に加え、連結納税制度の適用に伴う税金費用の減少等により、前回予想を上回る見込み。

6. 株主還元

- ✓ 当社では、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題のひとつとして認識しております。
- ✓ 手元資金や株価水準等を総合的に勘案し機動的な自己株式取得を実施することで、資本効率の向上を図ります。
- ✓ また、創立70周年を記念し、株主の皆様のご支援、ご協力に感謝の意を表すため、記念配当を実施致します。

自己株式取得

取得対象 株式の種類	普通株式
株式の取得価額の 総額	100億円（上限）
取得しうる株式の 総数	900万株（上限）
取得期間	2019年8月5日～12月31日

記念配当（創立70周年）

決議	2020年3月開催予定の定時 株主総会に付議予定
記念配当総額	11億円
1株あたり 配当額	6円／株
基準日	2019年12月期の期末配当 （12円）と同時 年間配当は合計30円

7. Appendix

- ✓ 11月14日にオニツカタイガー、中国をテーマとした事業説明会「インベストメントデイ」を開催予定。

2019年度の主な予定

11月1日	15:00 <u>15:30-16:30</u>	2019年12月期第3四半期決算発表 <u>2019年12月期第3四半期電話会議</u>	機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け
-------	-----------------------------	---	----------------------

11月14日	午前 @東京	<u>第2回 インベストメントデイ</u>	機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け
--------	--------	-----------------------	----------------------

2020年 2月14日	15:00	2019年12月期 決算発表
----------------	-------	----------------

2020年 2月17日	15:00-16:00	2019年12月期 決算説明会	機関投資家、証券アナリスト向け
----------------	-------------	-----------------	-----------------

用語

意味

パフォーマンスランニング

ランナーが快適に走ることができ、優れたパフォーマンスを発揮できるように機能性をもたせたランニングシューズ。ランナーの走り方や走力などに応じたさまざまなランニングシューズを展開。

スポーツスタイル

ランニングやトレーニングをライフスタイルに取り入れ楽しむファンランナー向けのランニングシューズやデザイン性に優れカジュアルにスニーカーとして使用できるシューズの総称。アシックスタイガー含む。

コアパフォーマンススポーツ

陸上競技、テニス、バレーボールなどの競技スポーツ用のシューズ。スポーツ選手が高いパフォーマンスを発揮できるように優れた機能性を備える。

オニツカタイガー

社名をアシックスとする1977年まで、かつて競技用だったシューズを、2002年に洗練されたスタイルを求めてスポーティなファッションブランドとして復刻。

アシックスタイガー

1980年代～1990年頃の競技用のシューズを踏襲し、ストリートファッションの要素も取り入れたスポーツライフスタイルブランド。2015年に復刻。

ウォーキングシューズ

スポーツシューズづくりと同様に、日常生活での履きやすさや歩きやすさを追求したライフスタイルシューズ。

ワーキングシューズ

アシックススポーツ工学研究所による研究知見を生かした、建設、運輸、医療などの現場での立ち仕事や現場作業向けのシューズ。

ホグロフス

ハイパフォーマンスかつサステナブルなアウトドアギアを提供するブランド。2010年以降アシックスグループ。

ASICS Runkeeper

スマートフォン端末のGPSにより、ランニング、ウォーキング、サイクリングなどの運動を追跡・記録するフィットネス・トラッキング・アプリ。

OneASICS

さまざまな会員限定特典を提供するアシックスのメンバーシッププログラム。